

2026年度ECOMO

交通バリアフリー 研究・活動助成

[募集のお知らせ]

2026年度募集より
部門等に変更があります。

01

重点テーマ部門

助成金 200万円以内

02

アーリーキャリア部門

助成金 30万円以内

03

活動部門

助成金 20万円以内



募集期間

2025年11月1日^土～11月30日^日 ※当日消印有効

助成期間

2026年4月1日^水～2027年3月15日^月

※重点テーマ部門で、2年までの研究計画をもって申請された場合は、2026年4月1日(水)～2027年3月15日(月)となります。
※成果報告書の提出も3月15日(当日消印有効)となります。

※助成対象及び助成予定額の決定は、財団内に設置した審査委員会により選定し、2026年3月頃通知する予定です。また、助成金額の確定は、2027年3月下旬頃通知する予定です。

重点テーマ部門

対象: 2026年4月1日より助成事業完了時まで、国内の大学院、大学、高等専門学校及びこれに附属する機関の研究者、大学院生、研究生、または研究機関、企業、NPO等の研究者等

助成金

200万円以内
採用件数最大2件

〈助成期間〉: 原則単年度(2年まで延長可)

以下の①～④に基づいた調査研究や技術の研究開発を募集します。

- ① **サイン**: 公共交通機関のターミナル(鉄道、空港等)内及び、他モードとの乗り継ぎを含めた面的な広がりをもった案内サインのあり方
- ② **情報**: 移動円滑化に関する事前情報提供の拡充、WEB及びアプリのアクセシビリティのあり方、異常時における様々な情報提供のあり方
- ③ **接遇**: 他社乗り継ぎ等を含めた接遇介助のあり方
- ④ **モビリティと環境**: 交通空白地域の高齢者・障害者等のモビリティ戦略

アーリーキャリア部門

対象: 以下のいずれかに当てはまる方

- 1. 各年度4月1日時点で国内大学院に所属し、博士の学位を取得前の者
- 2. 各年度4月1日時点で国内大学、研究機関、企業等に所属しており、最初に所属した組織から通算5年以内の者

助成金

30万円以内
採用件数最大5件程度

〈助成期間〉: 単年度(継続での申請は2年まで)

活動部門

対象: 個人や企業、NPO等

助成金

20万円以内
採用件数最大5件程度

〈助成期間〉: 単年度(継続での申請は2年まで)

申請方法

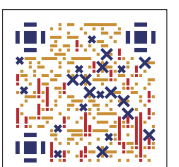
財団のホームページより申請書をダウンロードの上、ご申請ください。ご申請前には、「助成のしおり」を必ずご確認ください。



公益財団法人

交通エコロジー・モビリティ財団

ECOMO交通
バリアフリー研究・活動
助成のホームページ
申請書もこちらから
ダウンロードいただけます。



ご不明点に関するお問い合わせは: jyosei@ecomor.or.jp または 03-5844-6265 企画調査部バリアフリー推進グループ(平日10:00～17:00)まで



助成対象

交通バリアフリーに関わる活動とし、
以下のいずれかに該当する内容とします。

◎公共交通機関における移動のバリアフリー化に関わるもの

◎公共交通機関に関連する建築物や道路等のバリアフリー化に関わるもの

◎公共交通機関における移動のバリアフリーに関する教育や人材育成等に関わるもの

過去の助成実績（2020年度以降）

■若手研究者部門

▶2020年度

- ・子供連れの移動時の安全性と利便性の両立をめざした子供と乗る自転車
- ・岩手県陸前高田市におけるラストマイル輸送に関する研究

▶2021年度

- ・SfMを用いた高精度3次元復元に基づく歩行空間のバリア表示と活用

▶2022年度

- ・障害者等用駐車区画・バリアフリートイレの利用状況把握システムの開発
- ・移動円滑化に資する鉄道駅の簡易委託化に関する研究

▶2023年度

- ・乳幼児連れの機能分散トイレ利用を促す案内誘導サインと設備に関する研究

▶2024年度

- ・交通バリアフリーに関する法的研究
- ・ユニバーサルデザインタクシーは、車いすユーザーにとって移動手段のひとつとなりえるのか

■研究・活動部門

▶2020年度

- ・四肢まひ者の公共交通機関利用を支援するための調査研究
- ・どこでも・だれでも・気軽にサポートプロジェクトcont.
- ・オリ&パラ開催によるバリアフリー化効果の評価の試み
- ・通院送迎バスの共同運行による患者の通院負担軽減に向けた取り組み
- ・障害者アート作品の鑑賞による障害者支援の啓発効果に関する研究

▶2021年度

- ・視覚障害者のホーム転落をなくすための啓発活動
- ・携帯型触知案内図の研究開発とその評価

▶2022年度

- ・視覚障害者のホーム転落をなくすための啓発活動
- ・暑熱環境下での移動中に道路から受ける輻射熱の身体的影響低減策の開発

▶2023年度

- ・障害者や高齢者の移動のラストワンマイル(徒歩圏)をICTで支援をするためのスマホ教室の開催
- ・視覚障害者の踏切利用の安全性向上のための研究
- ・視覚障害者信号機横断プロジェクト 視覚障害者が安心安全に信号横断できる社会づくり

▶2024年度

- ・障害者や高齢者の移動のラストワンマイル(徒歩圏)をICTで支援をするためのスマホ教室の開催
- ・精神障害・発達障害のある人の鉄道交通利用に伴う意識調査

▶2025年度

- ・移動困難者の外出を社会で支えるために～福祉交通の危機的状況の解消～
- ・障害者・高齢者の公共交通利用における情報バリア解消について一医療・介護関係者等に対する「公共交通利用教育」に関する取組一

■一般部門

▶2020年度

- ・聴覚失認者にとつての緊急災害時のチャイムの意義
- ・過疎地域における高齢者のモビリティ施策としてのタクシー補助制度のありかた
- ・聴覚障害者の移動時の快適性に関する当事者研究～機内エンターテインメントへの字幕付与に着目して～
- ・利用者視点による交通バリアフリー接遇の簡易評価尺度の開発
- ・多様なニーズに応える先進型障害者用駐車場の開発に向けた調査研究
- ・視覚障害者の道路横断時の方向定位を支援するツールに関する実証研究

▶2021年度

- ・公共交通を支える担い手確保に関する研究
- ・地域公共交通サービスにおける健康に関するクロスセクター効果の算出
- ・交通弱者のためのAR技術を用いた大型複合施設のナビゲーションアプリの開発と検証
- ・パーソナル・モビリティ・ビークルを用いた高齢買い物弱者の移動支援に関する研究
- ・地方都市におけるタクシー&バスライド導入による高齢者の活動拡大への効果と導入課題に関する研究
- ・公共交通機関における、健常者による配慮が必要な人のニーズへの「気づき」と「気づかい」を促進するメッセージの表示方法に関する予備的研究
- ・MaaSおよび新モビリティサービス時代の交通システムの災害発生後バリアフリー交通における活用可能性に関する研究
- ・復興事業中における標高の変化を考慮した移動制約者の津波避難に関する研究

▶2022年度

- ・高齢介護者における身体機能および車いす操作の介助能力からみた道路のバリアフリー化に関する研究
- ・公助と自助の隙間を埋めるラストワンマイル交通サービスのしくみづくり
- ・地域の多様性と災害復興の経験を活かした交通バリアフリー教育の実践研究
- ・ナビゲーションタグの普及展開に向けた検討と課題の整理
- ・子育て当事者が求める幼児用座席を設けた自転車の安全な駐輪場に関する研究～駐輪場ガイドライン作成に向けて～
- ・誰もいない場所での目の見えない人・見えにくい人に対する移動支援

▶2023年度

- ・発達障害や認知症者などの外からは見えにくい障害がある人が安心して航空機を利用できるようにする為の環境の整備に関わる調査一新千歳空港をフィールドに[気持ちを落ち着かせる為の場所]の実証実験を通して一
- ・駅ホームにおける視覚障害者の行動に影響する個人要因の研究
- ・ナビゲーションタグの実用化ならびに標準化に向けた検討と課題の整理

▶2024年度

- ・公共交通機関をベビーカーで利用したいと考える保護者支援とは～兄弟を含む多胎児等家庭保護者の捉えを資料として～
- ・ロービジョンがある人の夜間歩行を支援可能な光の発光条件と照射条件の評価
- ・知的障害者の公共交通利用における心のバリアメカニズムの解明一主に特別支援学校通学児を対象に
- ・外部団体が管理している鉄道駅におけるバリアフリーの有効性に関する研究

▶2025年度

- ・知的障害児・発達障害児及びその家族の空港・航空機利用に関する映像メディアを用いたバーチャルシミュレーションの効果検証
- ・精神障害者運賃割引が外出行動、生活の質等に与える影響に関する研究
- ・認知症の人と高齢者の公共交通施設における図記号と交通標識の理解度調査
- ・画面の指さしで応答する聴覚障害者のコミュニケーション支援サイトの有効性検証
- ・視覚障害者の駅ホームからの転落・ヒヤリハット事象のヒューマンエラー分析



公益財団法人

交通エコロジー・モビリティ財団

〒112-0004 東京都文京区後楽1-4-14 後楽森ビル10階

TEL:03-5844-6265 FAX:03-5844-6294 Email:jyosei@ecomor.or.jp